

宝グループのサステナビリティへの 取り組み



2025年2月17日

宝ホールディングスの概要

サステナビリティの歩み/取組事例

今後の課題

宝ホールディングスの概要

サステナビリティの歩み/取組事例

今後の課題

宝ホールディングスの概要

- 社名： 宝ホールディングス株式会社
- 創業： 1842（天保13）年
- 設立： 1925（大正14）年9月6日
- 上場市場： 東証プライム市場（証券コード： 2531）
- 本店所在地： 京都市下京区四条通烏丸東入
- 取締役社長： 木村 睦
- 資本金： 13,226百万円
- 従業員： 5,492名（グループ連結／2024年3月末現在）
- 連結子会社： 64社（2024年3月末現在）
- 2024年3月期実績
 - 連結売上高 3,393億円
 - 連結営業利益 222億円

宝グループの構成

国内でお酒を製造・販売する「宝酒造」から、宝酒造、宝酒造インターナショナル、タカラバイオの3つの事業ポートフォリオで構成される

宝ホールディングス株式会社

宝酒造

国内事業



宝酒造インターナショナルグループ

海外事業



タカラバイオグループ

バイオ事業



その他グループ会社

宝酒造のあゆみ

- 1842年 京都・伏見で清酒の製造業を開始
 1980年代 焼酎ブームを巻き起こした宝焼酎「純」や日本初の缶入りチューハイ「タカラcanチューハイ」を始めとしてヒット商品を発売
 2000年以降 「一刻者」「タカラ焼酎ハイボール」「漣」などを発売



1897 「寶」印の商標をみりんにおいて登録



1977 焼酎復権に向け宝焼酎「純」を発売



1984 国内初の缶入りチューハイ、タカラcanチューハイを発売



2001 芋と芋麴でつくる全量芋焼酎「一刻者」を発売



2001 高品質酒の生産拠点として灘に「松竹梅白壁蔵」が完成

和酒No.1メーカーのポジションを活用した付加価値経営への変革



2006 辛口チューハイ、タカラ「焼酎ハイボール」を発売



2007 極上「宝焼酎」を発売



2011 松竹梅白壁蔵「漣」スーパークリング清酒を発売



2017 地域限定チューハイ「寶CRAFT」を発売



2018 宝酒造の清酒国内販売量がNo.1に躍進

宝酒造インターナショナルグループのあゆみ

- 1951年～ 松竹梅の輸出からスタート
- 1983年～ 海外生産開始。「松竹梅」を中心とした和酒やウイスキーなどを世界各地域で提供
- 2010年～ フランス・フーデックス社を皮切りに、世界に海外日本食材卸網を拡大
- 2017年 宝インターナショナル株式会社設立



1951 米国に清酒「松竹梅」の輸出を開始



1983 米国宝酒造を設立し、米国産「松竹梅」の製造・販売を開始



1986 トマーチン社(英国)の資産・営業権を取得



1992 エイジ・インターナショナル社(米国)の親会社AADC社の全株式を取得



1995 北京寛宝食品有限公司(現宝酒造食品有限公司)を設立し、中国産「松竹梅」の製造開始



2010 フーデックス社(フランス)の株式を取得し、海外日本食材卸事業に参入



2013 タザキフーズ社(英国)の経営権を取得



2016 ミューチャルトレーディング社(米国)を子会社化。米国に日本食材卸網を展開



2017 ニッポンフード社(オーストラリア)の増資を引き受け子会社化



2020 東京共同貿易㈱の株式を取得し子会社化

タカラバイオグループのあゆみ

- 1979年 国産初の遺伝子工学研究用試薬「制限酵素」を発売しバイオ事業を開始
- 2002年 分社化し、タカラバイオを設立
- 2004年 東京証券取引所マザーズ市場への上場
- 2016年 東証第1部に市場変更。一層の事業拡大と企業価値の向上・さらなる成長をめざす



1979 国産初の遺伝子工学研究用試薬「制限酵素」を発売
(バイオ事業を開始)



1988 PCR法による遺伝子増幅システムの国内独占販売権を獲得



1993 全世界にわたる広範なPCR関連特許ライセンスを取得。中国でバイオ研究用試薬の製造を開始



1995 血球系幹細胞に高効率に遺伝子を導入するレトロネクチン®法を開発



2004 東京証券取引所マザーズに株式を上場



2005 米国Clontech Laboratories, Inc. (現:Takara Bio USA, Inc.)の経営権を取得



2014 遺伝子・細胞プロセッシングセンター竣工。CDMO事業を本格的に開始



2016 東京証券取引所マザーズから同市場第一部へ市場変更



2020 遺伝子・細胞プロセッシングセンター2号棟稼働



2020 体外診断用医薬品「Takara SARS-CoV-2ダイレクトPCR検出キット」製造販売承認取得

宝ホールディングスの概要

サステナビリティの歩み/取組事例

今後の課題

＜企業理念＞

自然との調和を大切に、発酵やバイオの技術を通じて
人間の健康的な暮らしと生き生きとした社会づくりに貢献します。



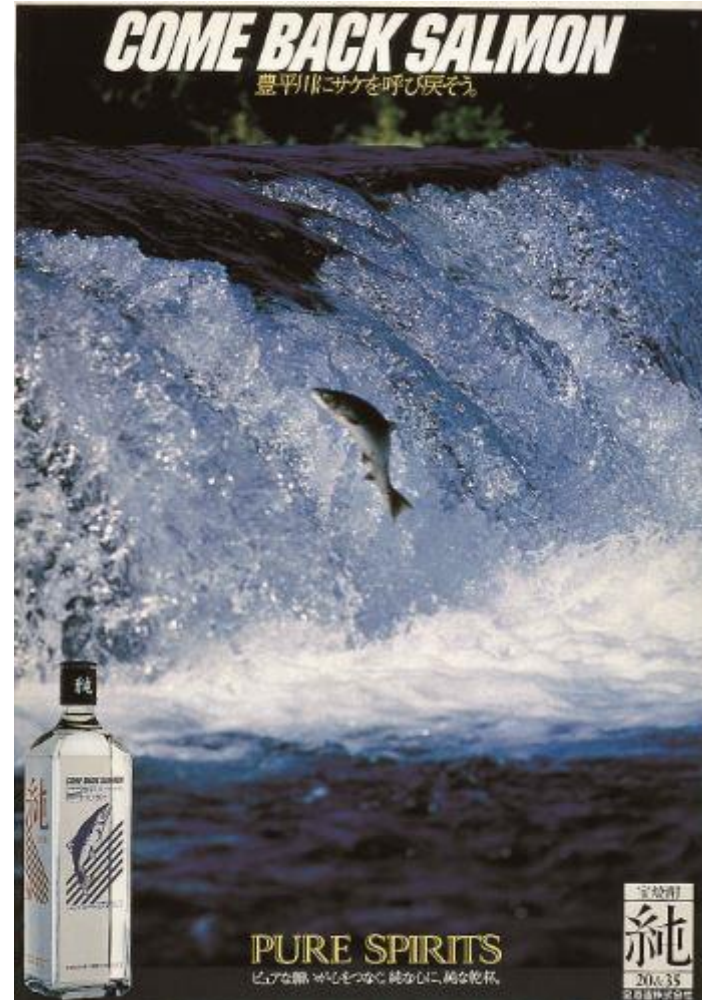
宝グループのサステナビリティ活動の歩み



カムバック・サーモン・キャンペーン（1979～1991年）

12

1979年4月、札幌の中心を流れる豊平川にサケを呼び戻す市民運動を行っていた「さっぽろサケの会」への支援を表明し、「カムバック・サーモン・キャンペーン」をスタート

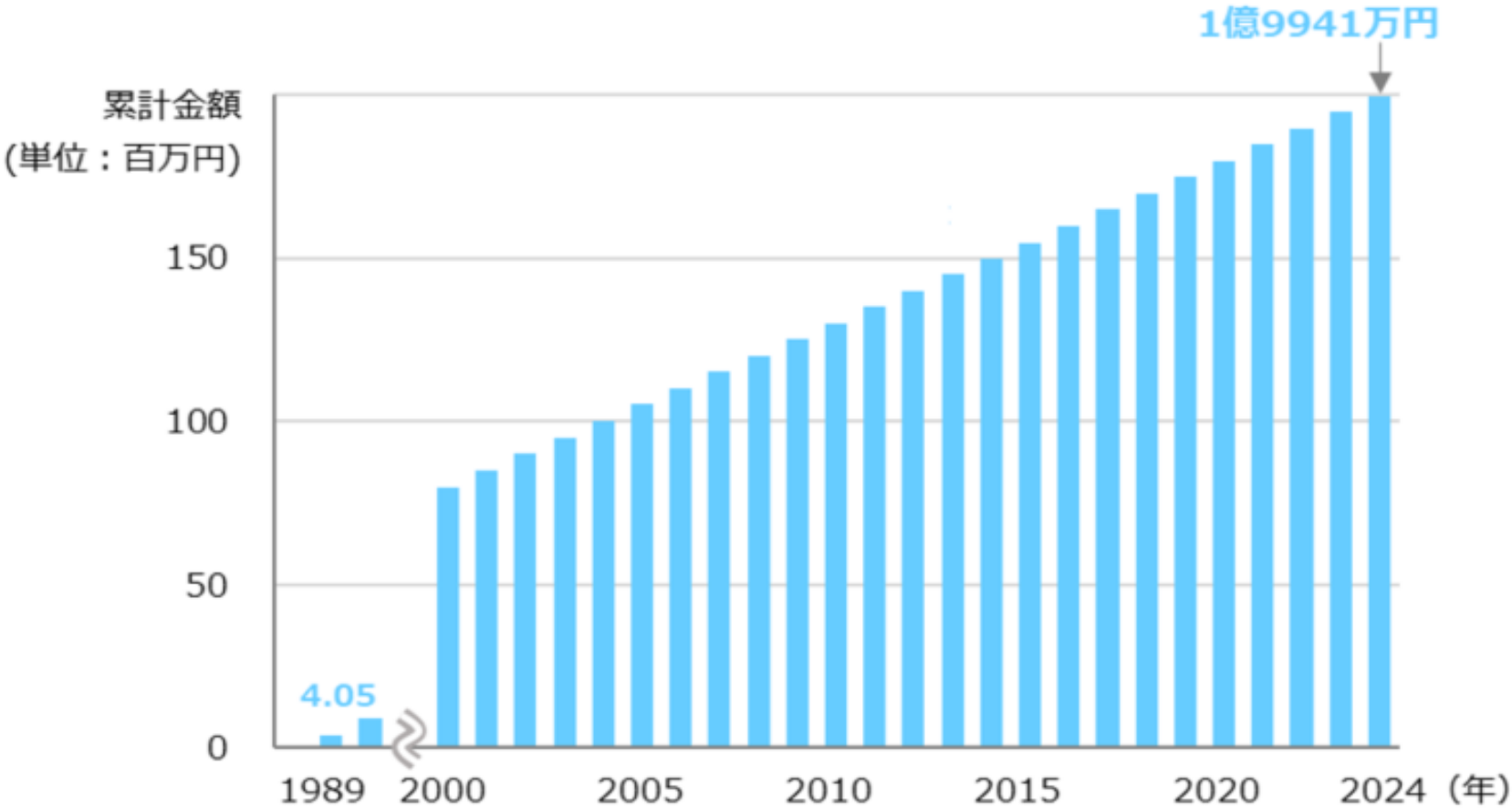


生物多様性保護のため、日本の森林・草原や水辺の自然活動を守る活動や、そこに生息する生物を保護するための研究など、に対して助成を実施



助成実績

2024年度までの39年間の助成金累計金額は、1億9941万円となりました。（2024年6月現在）



国産製品で初めてステイオンタブを採用し、缶飲料のプルタブ問題に着手

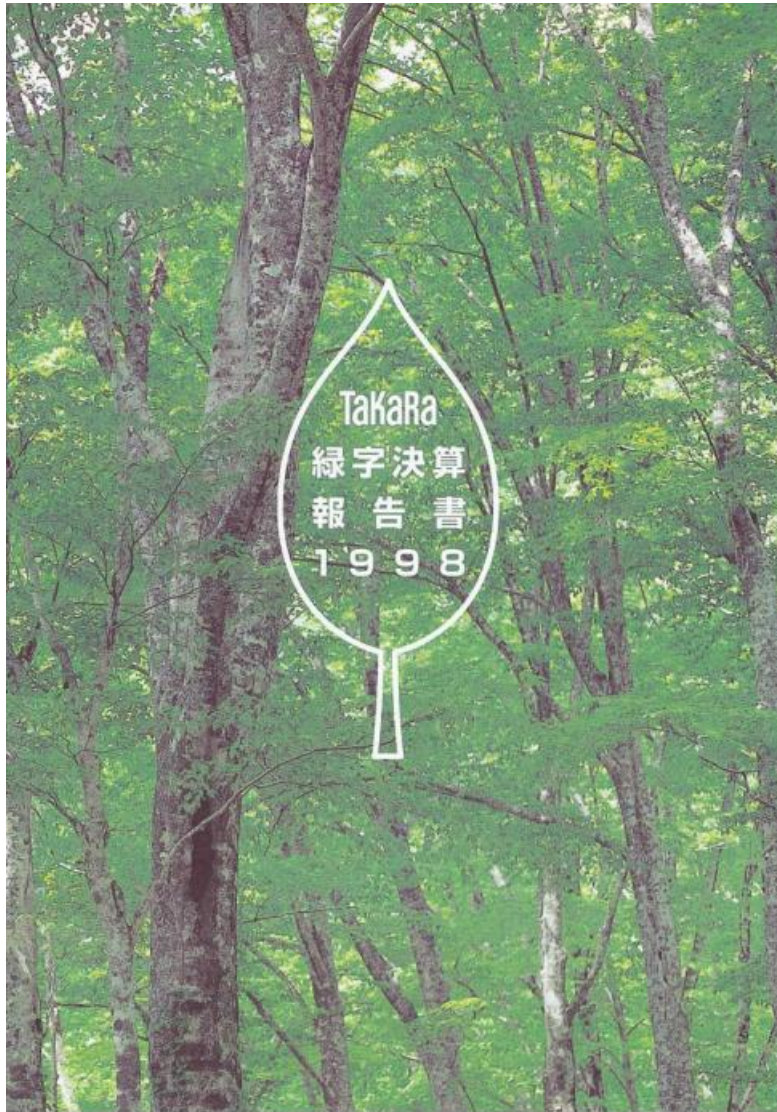


市民参加型環境ボランティアを主催。1000人以上の参加者が海岸を清掃



緑字決算報告書（1998年～2004年）

事業活動の環境に与える負荷と貢献を「緑字」と名付け数値化、緑字決算報告書として年 1 回開示。



子供たちへの環境教育・生物多様性教育を実施する田んぼの学校を開催。参加した親子とともに
にお米作り体験や自然観察活動、収穫体験を提供。

春 田植え編

田植え体験



苗を手に田植えスタート

自然観察



自然観察講師の話に興味津々

夏 草取り編

草取り体験



根が張った草を手で抜くのは一苦労

自然観察



昆虫をつかまえてみんなで観察

秋 収穫編

稲刈り体験



初めての稲刈りは難しい

自然観察



捕まえたトンボをよ～く観察！

〈生産工程でのCO₂排出量削減の取り組み事例〉

- 高効率ガスボイラー、照明のLED化等の省エネ設備の導入
- アルコール精製工程における蒸留条件の最適化
- コージェネレーション(熱電供給)システムの利用促進



マイクロガスタービン コージェネレーションシステム

- 黒壁蔵では「太陽光発電の導入」、「重油から液化天然ガス（LNG）への燃料転換」により温室効果ガス（GHG）の削減に取り組む
- 電力のメニュー切替によって、実質再生可能エネルギー由来100%を実現

■ 重油から環境負荷の低いLNGへ燃料転換

- ・ 稼働時期：2025年1月～
- ・ 黒壁蔵が排出するCO2のうち2018年度比で約18.7%のCO2排出量（1.617t相当）削減を見込む



宮崎・高鍋町「黒壁蔵」



ボイラ改造、CO₂18%減

[illegible]

(5月29日付 日刊工業新聞)

〈物流工程でのCO₂排出量削減の取り組み事例〉

- フェリー、鉄道などへのモーダルシフト
- 消費地生産による東西拠点間の転送の削減
- 物流子会社による高積載トラックの開発



専用タンカーでのアルコール輸送

廃棄物削減の取り組み事例

- 焼酎粕飼料化設備の導入
- 排水処理汚泥の減容化



焼酎粕の飼料化設備

酒粕やみりん粕はほぼ100%再利用。焼酎粕も飼料化に取り組む。



清酒やみりんの酒粕はほぼ100%再利用

焼酎粕の飼料化設備

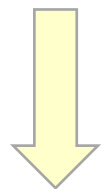
宝グループのサステナビリティ

長期経営構想「TaKaRa Group Challenge for the 100th」

Vision（ありたい姿）

笑顔で繋がる豊かな暮らしを ～Smiles in Life～

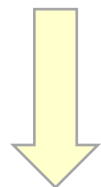
「人と人の繋がり笑顔にあふれた健康的で豊かな日々の暮らしへの貢献」



事業活動を通じた社会的価値の創造を将来にわたって実現し続けていくためには、様々な社会課題の解決にこれまで以上に取り組む必要性がある。

2020.5 「宝グループ・サステナビリティ・ポリシー」公表

10の重要課題（マテリアリティ）を選定



サステナビリティ・ポリシーの方針に基づく、具体的な中長期目標を設定。達成時期と目標レベルを定め、より実効性の高い取り組みへ。

2021.6 「宝グループ・サステナビリティ・ビジョン」公表

宝ホールディングスの概要

サステナビリティの歩み/取組事例

今後の課題

「寶CRAFT」＜京檸檬＞はエコプロアワードで財務大臣賞を受賞したが、事業を通じた社会課題の解決については今後強化が必要

宝酒造が「第7回エコプロアワード」で財務大臣賞を受賞！

12月6日、東京ビックサイトにて表彰式が開催されました。



●受賞理由

- ①耕作放棄地という社会課題に対し、地場の農作物の開発・製品化というアプローチで解決している
- ②地域と連携し地域課題解決にも資する好例と評価できる

2030年、2050年の目標に向けたCO2排出量削減の実行

○宝酒造、宝酒造インターナショナルグループの生産拠点の
CO2排出量(Scope1,2)削減目標および削減計画

